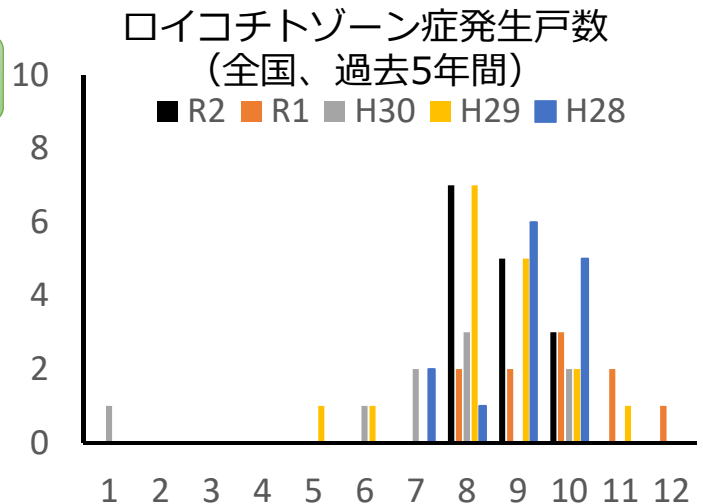


ロイコチトゾーン症に注意しましょう

届出伝染病の一つであるロイコチトゾーン症は、原虫が原因で起こります。昔から発生が確認される病気ですが、今年度管内で2例発生がありました。被害防止に努めましょう。

ヌカカが媒介する原虫が原因

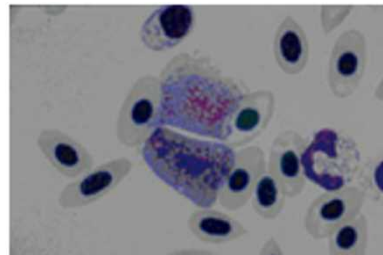
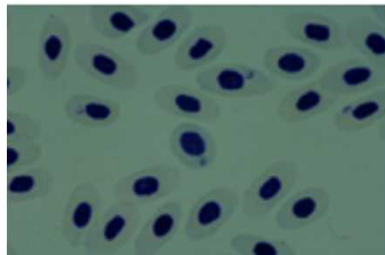
細胞よりも小さな寄生虫であるロイコチトゾーン・カウレリーが原因です。網戸の目より小さな大きさのニワトリヌカカによって伝播され、鶏以外にはかからない病気です。ヌカカが発生する夏に感染が広まり、病気の報告としては8～10月に多いようです。



症状は貧血～死亡など、大きな鶏は症状が軽いことが多い

体の大きな鶏は症状が軽いことが多いようですが、症状は以下の通りです。

(重症) 沈鬱～うずくまり、出血、死亡 (軽症) 貧血、緑色便の排泄、削瘦、産卵低下など死亡してしまったり弱っている鶏や血液を用いて検査を行うことができます。症状に不安がある場合は、御相談ください。



動物衛生研究所ホームページより

予防はヌカカを減らすこと、発生時は薬の使用も検討

- 肉用鶏や10週齢までの採卵鶏ヒナ → 飼料添加剤の投与
- 採卵開始前までの採卵鶏ヒナ → サルファ剤などの動物用医薬品の投与
(飼料添加剤や動物用医薬品には使用禁止期間が定められています。注意しましょう)
- 採卵中の鶏 → ニワトリヌカカを減らし感染の機会を少なくする
例えば・鶏舎周囲の除草、忌避剤の散布、ヌカカ用の殺虫剤、LEDライトによる捕虫 など

栃木県県北家畜保健衛生所

那須塩原市千本松800-3

TEL 0287-36-0314 / FAX 0287-37-4825